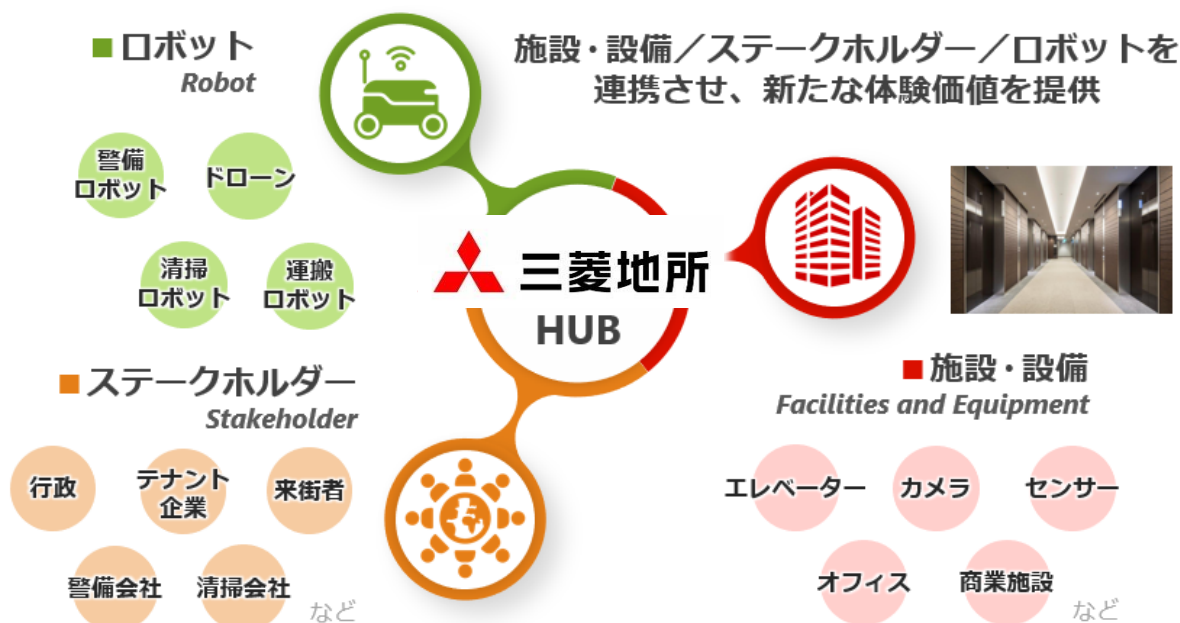


～施設とロボットを連携させ、新たな体験価値を提供～

「ロボットフレンドリー」な環境を構築 ロボットを活用した次世代型サービスを推進

三菱地所株式会社は、スマートシティ化の推進とともに、「三菱地所デジタルビジョン」を策定してDX（デジタル・トランスフォーメーション）により生活者が暮らしやすさを実感できる新しいまちづくりを展開しております。今後、スマートシティにおける先進的サービス提供を支え、オンライン・オフラインの双方にアクセス可能な「ロボット」を導入しやすくする「ロボットフレンドリー」（以下、ロボフレ）な環境づくりをさらに推進、今後、施設やまちとロボットが連動した新しいサービスを提供、新たな体験価値を提供してまいります。



▲ロボフレ環境構築に向けた取り組みのイメージ

三菱地所では近年、人手不足への対応や施設の維持管理の効率化のため、積極的にロボットを活用しています。現在、三菱地所グループが所有・管理・運営するオフィスや住宅、商業、ホテル、空港、物流施設等の施設において約100台のロボットを警備・清掃・運搬等で活用していますが、パンデミックにより非対面・非接触のニーズが急速に高まるなど、ロボットだからこその業務が拡大しています。

一方、ロボットが施設内外で稼働するには、ロボットが容易に垂直移動・水平移動できるようエレベーターやセキュリティドアとの通信および連携が急務です。

三菱地所は、ロボフレ環境の構築や各種ロボットと施設・設備を連携させた新サービスの提供を行うだけでなく、行政やテナント企業、来街者やロボットメーカー、警備会社や清掃会社といったステークホルダーを結びつけるハブを担い、ロボットが領域の制約なく活動できる環境を整備、ロボットを活用した次世代型まちづくりを推進してまいります。

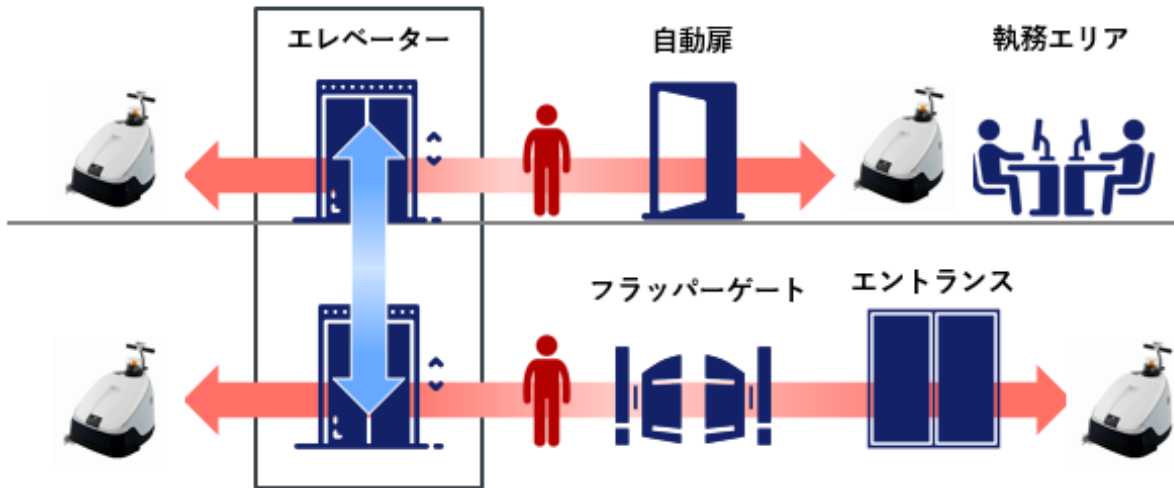
具体的には、経済産業省のロボフレ環境を実現するための予算事業である「革新的ロボット研究開発等基盤構築事業」に参画し、清掃ロボットや配送ロボット等をエレベーターやフラッパーゲート、セキュリティドア、入退管理システム等各種ビル設備と連携させる開発を進めてまいりました（次頁の施策参照）。その開発成果を活かしながらロボフレ環境の実現を目指し、外部システムとも連動しながら施設の維持管理効率化や新たなニーズに対応してまいります。

■ロボフレ環境の構築とロボットを活用した具体的な施策① 清掃サービス

実施内容：ロボットと各種ビル設備(エレベーター・フラッパーゲート・セキュリティドア・入退管理システム)を連動させ、ロボットが各居室・フロアを移動しながら清掃を行えるシステムを開発し運用を整理することで、ロボットの効率的な導入・運用、清掃業務の効率化を目指す

実施場所：大手町フィナンシャルシティグランキューブ
大手町パークビルディング 3階～5階

参画企業：株式会社セキュア、日本信号株式会社、パナソニック株式会社、株式会社日立製作所



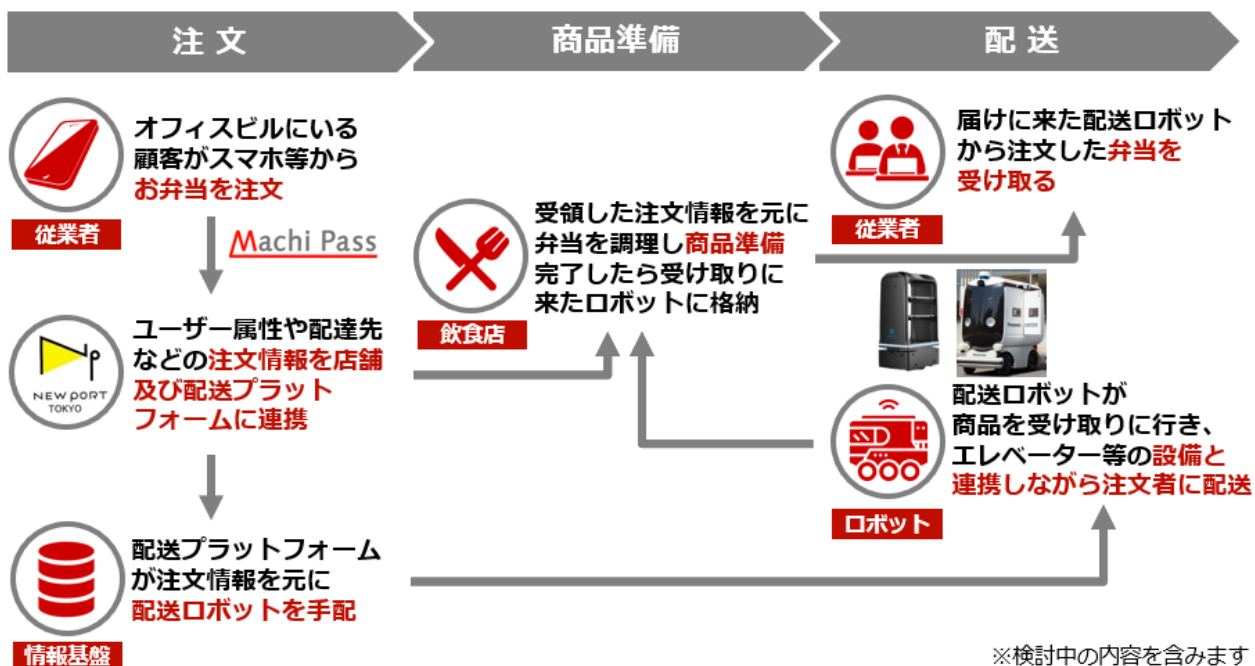
■ロボフレ環境の構築とロボットを活用した具体的な施策② フードデリバリーサービス

実施内容：フードデリバリーサービス(スカイファーム株式会社運営)と運搬ロボット、各種ビル設備を連携させ、ロボットが屋内外の飲食店舗からオフィスまで食事を運ぶ就業者向け飲食デリバリーサービスを展開、就業者の利便性向上の実現を目指す(1月25日時点で7つの飲食店が参加)

実施場所：大手町フィナンシャルシティグランキューブ

参画企業：NEC ネットズエスアイ株式会社、スカイファーム株式会社、パナソニック株式会社、株式会社日立製作所

実施期間：1月12日～2月28日(期間終了後、抽出された課題をもとに精度の向上を検討予定)



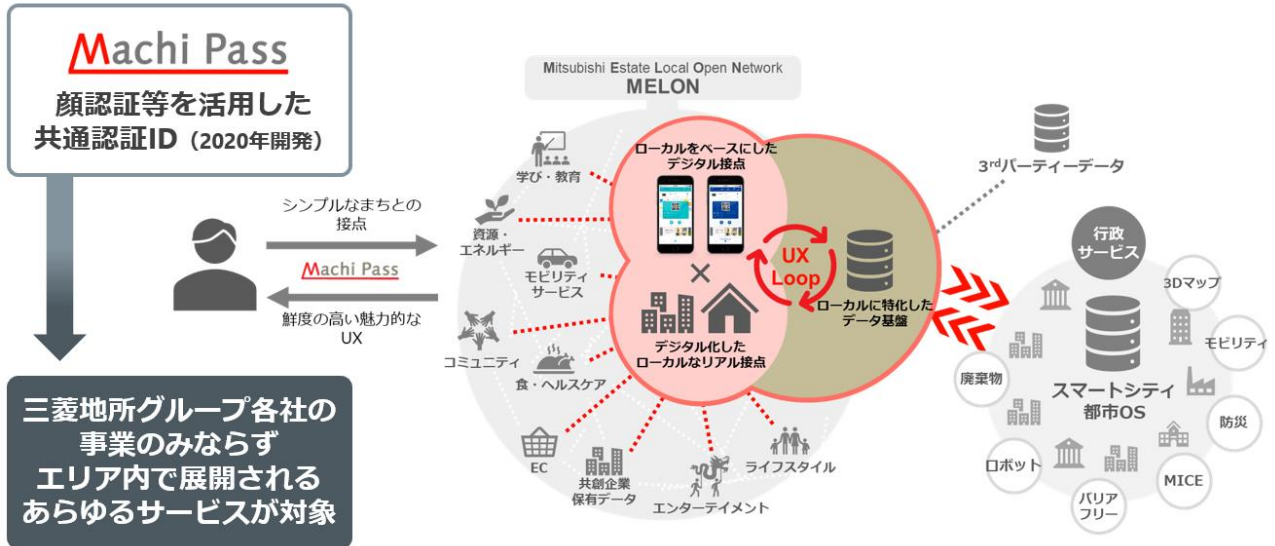
【ご参考】三菱地所デジタルビジョンについて

(関連リリース) https://www.mec.co.jp/news/archives/mec210623_digitalvision.pdf

1 オン・オフラインを自由に
行き来する体験の提供

2 事業横断的なデータや
好意的に提供される
個人データの分析・活用

3 まちの関係者と
オープンにつながる
エコシステムを構築



【ご参考】経済産業省プレスリリース

<https://www.meti.go.jp/press/2021/01/20220125002/20220125002.html>

以上